



<http://www.suwakorc.net>

Email: suwakorc@suwakorc.net

第1523回例会報告

平成29年 9月 28日 (木) 雨

会長挨拶

会長 高山 巖

☆幹事報告

【報告事項】

- 1:10月15日(日)は、長野のホテル国際21で地区大会が開催されます。10月4日までに、参加の可否を事務局までFAXください。
- 2:次週10月5日(木)は、三クラブ合同夜間例会です。受付6:00点鐘6:30となっております。参加者は、遅れないようお願いします。

【連絡事項】

- 1:メジャードナー晚餐館の案内が来ました。メジャードナーの、小松会員、溝口会員、渡邊会員にお渡ししました。
- 2:日台ロータリー親善会議の案内が来ました。
- 3:9月理事会報告ができました。レターボックスをご確認下さい。
- 4:お日限様書道展の案内が来ました。協賛金を贈呈し、会長が出席します。
- 5:諏訪地域献血連絡協議会より、献血啓発資材(ポケットティッシュ)の発送案内がありました。届き次第、昨年と同様にお配りします。

【受領文書】

- 1:帰国留学生報告書が届きました。

最近よく耳にする、終活という言葉は、数年前にある週刊誌が使ったのが最初だと言われていますが、今ではそこその年齢の方には普通に使われる、むしろ重要さが増した造語になっています。

医療の進歩などで平均寿命が延び、家族の形もどんどん変容してきました。現代の高齢者は、死に孤独に向き合わねばなりません。

まさに『ひとり死』の時代であり、いまや最後の『個性』の発露の場となった感じも致します。

伊那市に在住の友人から「仏像と四国遍路」と題して、彼自信が彫刻した仏像と、四国遍路に行きつて撮ってきた写真等の作品展を開催したからと、誘いがありましたので観覧してきました。

小さなギャラリーで、作品数も多くはないのですが、60才過ぎから始めたにしては結構なものだなと感心しつつ、仏像の制作方法と過程の説明を受けました。像高30から50センチメートル程度のものですが、緻密な彫刻と、光背の透かし彫りや、台座の蓮弁のひとつひとつを彫りだして合成していく、また、反りのある材料を必要とするときは、直接彫り出す場合と、板状の部材を柄(ほぞ)と柄穴を使って接続し、曲線状にしていく等の技法の説明は興味津々でした。

弘法大師・空海の足跡を辿る四国八十八カ所霊場巡りは、自動車による移動と、徒歩による場合があります。行程の大半は近代化されていますが、結構きついものがあるとのこと。へーと思ったことは、霊場巡りには、その回数によってランク付けがされており、寺の巡拝ごとに奉納する小さな「納札」(おさめふだ)が色分けされているとのこと。只の白から4色あり、最高ランクは銀色でした。



♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	37人	3名	12,000円	お蔭様で今年も無事誕生日を迎えることができました。皆様に感謝しながら今後ともよろしく申し上げます。 岩村 亀夫
出席対象	37人	累計	139,000円	
出席者数	26人	目標額	60万円	
出席率	70.3%	達成率	23.1%	
前回修正	83.8%			

♪今週のことば～続き～



会長挨拶～続き～

♪今週の自己PR♪

～ワインが好きになりました～

下戸の私は今までお酒にはまったく縁がありませんでした。しかし何故か最近ワインを好んで飲むようになりました。

新しいワインボトルのコルクを開ける瞬間がたまりません。グラスを傾け香りを楽しみチーズを肴に一人でほろ酔い気分を味わっています。

ワインの知識はありませんが今は美味しく飲めればそれで満足しています。

クラブ奉仕委員会
高林 一紀



遙か1200年の昔、空海が観望していたであろう室戸岬の岩に立ち、空と海の雄大な線上で、空海に我が身を置き換えて、思いを馳せてきたとのことでした。贅沢の極みです。

良いお坊様の見極め方をご紹介します。

- ①格好良く垢抜けしていること
- ②あまり太っていないこと
- ③夜遊びがちょっと好きで、カラオケが上手いこと
- ④もしもロータリー会員の場合は例会出席率が良いこと

今日は、楽しみにしている坂村龍玄師による卓話です。どんな話が飛び出すのでしょうか？



社会奉仕委員会担当例会 2017/9/28

講師 坂村龍玄



ロータリーの崇高なる精神を、いまだ理解できていない私が、卓話をするなんて、おかしいとおもいますが、順番ということで話させていただきます。

大体坊さんの説教は5分から長くて10分までと決まっています、それ以上話すと嫌がられてみんな寝てしまいます。のであしからず。

奉仕という言葉は辞書で引くと「国家社会や目上の人などのために私心を捨てて力を尽くす。」「商人が客のために特に安く売ること」「報酬を求めずに、また他の見返りを要求するでもなく、無私の労働を行うこと」とあります。

奉仕という言葉には宗教の匂いがします。それもキリスト教です。

キリスト教に「山上の垂訓」に「何事でも人々から欲しいと望むことは、人々にもその通りにせよ」とあり、これを黄金律としています。東洋の考え方は「怒」と言い、「己の欲せざる所、人に施すなかれ」と説いています。これもキリスト教では「銀の教訓」としています。消極的な銀の教訓より積極的な黄金律を高く評価するのが、キリスト教的だと思います。

日本人の私には「小さな親切、大きなお世話」と感じてしまうのは、きっと私がへそ曲がりなせいでしょうね。しかしどうして「小さな親切」で「大きな親切」をしないのでしょうか。

奉仕という言葉、仏教に当てはめると、布施という言葉が一番近いと思います。布施とは、六波羅蜜の第一で、「布施、持戒、忍耐、精進、禅定、智慧(ちえ)」と悟りに至る為の六つの修行の第一です。

布施は三輪清浄でなければいけないとされています。つまり構成する3要素施者、受者、施物、がすべて清浄であることが条件です。

